僕はローンを返せるだろうか？

今年もあと2.5時間で終わる。夕食もひと段落した僕らは、居間で国民的歌合戦を観ていた。テレビから流れるアイドルグループの曲を、振り付けとともに熱唱する子どもたちと母。センターポジションは不動で母（六五）だ。この世代の若さには脱帽する。妻と姉は何やら女子トークで盛り上がっている。「今年はあの豪華衣装が見れないのはさびしいな」隣で父がつぶやく。「・・それはそうとな」父がまじめな顔になる。「ローン返済の道は、長く険しいぞ、孝則」「なに言ってるの今さら。その覚悟がなきゃ建てるなんて言わないよ、『ヘーベルハウスの2.5世帯住宅』この土地を買い、家を建て、何十年かけてこつこつローンを返しながら、僕と由紀子姉さんを育てあげてくれた父。自分も二人の子をもつ立場になり、あらためて父の偉大さがわかる。「まあ多少は、協力しなくもないぞ」「ありがとう父さん。気持ちだけもらっとく、今のところ」この先何十年、新しい家の大黒柱として、僕がふんばり続ける番だ。「由紀子は何か言ってたか？」昨晩あの後、姉と個別に話をした。2.5世帯住宅の場合、ローンを組む子世帯に親世帯の単身者が資金援助するケースも多い。そう言って姉は協力の意思を伝えてきたのだ。「家族って、ありがたいね」「・・そうだな」大晦日の時計の針が進む。遠くから除夜の鐘が聞こえてきた。テレビではカウントダウンがはじまる。「六〇、五九、五八、」家族全員、感慨深そうに数を読みはじめる。ひとつ屋根の下、この風景が当たり前になるのだろうか。「二八、二七、」二〇一三年。僕らの生活は一変する。もちろん期待のほうが大きいけど、不安もみんなあるはずだ。「十、九、八、」。がんばろう、愛する家族たちのために。さあ、僕らの2.5世帯元年へ。「五、四、三、2.5、二、一・・」

（明日掲載予定の元旦第五部「新春 住宅広告特集」広告紙面に）つづく

※前シリーズはヘーベルハウスHPへ。

2.5世帯住宅で、暮らしませんか？

考えよう。答はある。

ヘーベルハウス

http://www.asahi-kasei.co.jp/hebel/

HEBEL HAUS 40th ANNIVERSARY